

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第82回 ●

■ 聖の青春

将棋の故・村山八段を題材とした「聖の青春」の映画がこの冬公開された。没後20年近く経った今なぜ？という気もするが、好評のようである。昔のことを思い出しながら、今回は将棋のことを書いてみよう。村山さんとは亡くなる直前にお会いしたこともあることから、その感想も加えてみたい。

まずは、村山さんの師匠である森信雄七段との関係を書かなければならない。入社当時から将棋部に入っ

思わず（何しろあの風貌なので）、「やりましよるか？」と声をかけたら先生だったというエピソードもある。その後も森先生には数多く指導していただき、私の名人就位式にも来ていただいた。

森先生にはお弟子さんが多くおられ、毎年四段プロ入りや昇段のお祝いパーティがあり、大体参加していた。また、指導も森先生の都合がつかない場合は、お弟子さんが代理で来られていた。（残念ながら山崎さんは私が転勤した後に指導に来られたようで、対戦はない。多く対戦したのは増田裕司六段や女流の鹿野圭生二段などである）指導料は1回3万円弱だったが、たまに奨励会のメンバーや指導棋士の方も来られていたので、それは森先生の配慮だったのだろう。また、会社では年に1回組合主催のイベントがあり、

将棋や囲碁もプロの先生を呼んで指導対局したりしていた。その昔では王将位を取ったばかりの福崎九段にも来ていただいたこともあるし、別のイベントで林葉直子さん（失踪事件を起こす直前だったが）も来てもらっている。

村山さんは当時既にプロ棋士で名が売れており、我々の指導局にはやってこられなかった（元々体調が悪かったのでそれが理由かもしれないが）。

「聖の青春」にも記載があるが、平成10年4月19日に村山八段のA級復帰と、山崎さんの昇段（98年にプロ四段となつて）いる。当時でも期待の星であった）記念で、とある大阪のホテルで祝賀会があった。その当時は私も名人や世界一になつたりして将棋界では少々名も知られていたもので？余興で「連珠講座」なるものを行った記憶がある。司

会者の前フリを覚えていたのだが、「連珠のプロが来ているので教えてもらいましよう！」と言った時、「え？それは河村さんじゃないの？」と言ってくれたのが、「聖の青春」の著者である大崎善生さんであった。つまり、その前から大崎さんとは面識があり、話もしたことがあった。はつきりとした記憶はないのだが、森先生つながりで、ひよつとすると名人就位式に来ていただいたていたのかもしれない。

「聖の青春」に書いてあったので思い出したのだが、祝賀会の最初に森先生が「非常に申し訳ありませんが、村山が体調を崩してまして、こられそうにありません」と話したところに村山さんが頭をかきながら現れたので、全員大爆笑した。その時に「体調悪いと聞いていたけど来られたんだ」と思った。（何せA級リー

グを欠場することが伝えられていた)

で、私の連珠講座が終わって歓談していたら、村山さんがやって来られてしばらく話をした。内容はあまり覚えていないのだが、「さすがに連珠のことも詳しいなあ」と思った次第である。と同時に顔色があまり良くない印象も持った。

残念ながら、その4か月後の8月に亡くなられてしまった。その後にもまた森先生の指導があったのだが、その時はもう吹っ切れたような姿ではあったが、内心非常につらかっただろう。森先生は阪神・淡路大震災でも弟子を亡くされている。やはり弟子をなくすという事は、肉親を亡くすという事に近いものがあるのだろう。でも森先生は以前と変わらぬペースで弟子を取られており、連珠界でも見習うべき活動である。さて、このまま将棋の譜

でもご紹介できればいいのだが、逆に大変なので王位戦の挑戦手合いの話をした。

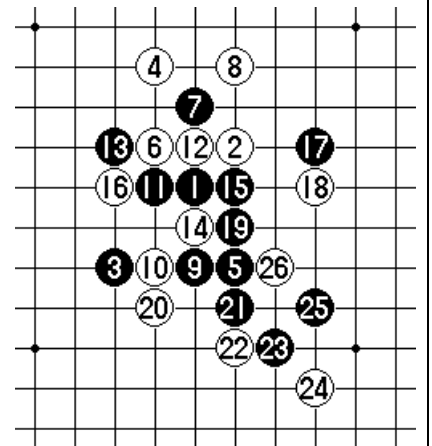
1敗1分で迎えた第3局。私の仮先で彗星を指定。当然交換して流星を打たれると思っていたら、交換せず

に白4を打たせてくれた。「次に負けてももう一局あるから余裕だな」と思ったが、ならばと白4と四題を指定。これも白を取られて

黒番が確定。何しろ連珠世界で今連載している局面である。これは勝たないと、

と思つたのも無理はない。長谷川王位は黒5に疑問があつたようで、白6と打つてきた。「いやこれは連珠

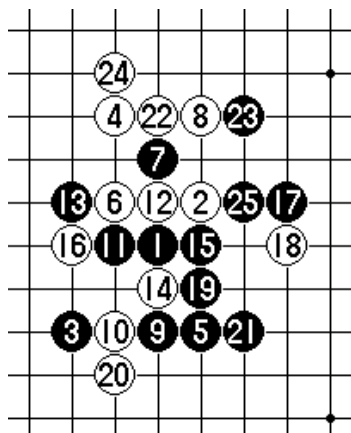
世界に掲載済みなんだから」と心の中で思いつながら黒7を打つ。白8は当然目につく防ぎなのだが、これには一本黒9と打つてから黒11と打てば以下黒が勝てるはず。だったのだが：今度はこつちが覚えていな



い。黒17に対し白18は一路左の方が強防だが、この18は上辺で含み手が打てるのでこちらの方が白としては魅力だろう。

これには確か黒19と引いて勝ちだ、と記憶の中に入っていた。白20と止められて、いざ勝とうとすると勝ちが見つかからない。「勝ちがある」とわかっていけば高段者なら勝てる」という名言(迷言)があるので、これで勝てないんじゃないか、と必死に読んだが勝ちがない。「追い勝ち」がある」と頭の中にインプッ

トされていたのがまずかつた。追い勝ちをするには黒21、23と引くしかないが、黒25を26なら白25に止められるし、本譜の黒25も当然の白26で勝ちがない。家に帰って調べてみると、黒21でまさかの呼手!だった。黒21と打っておけば、上辺の白の攻めも黒25で先手が取れるので、黒が勝っている。



この手は連珠世界に載っていると思つたら、「読者の研究に任せます」だった。こういうところで手を抜いたのが仇になった。せめてこの図だけでも載せておくんだつたと後悔した次第。